

実務経験のある教員による授業科目一覧表

〔部門：医療衛生学部 リハビリテーション学科 視覚機能療法学専攻〕

科目名	実務経験の授業への活用方法	科目責任者	科目担当者 (※は実務経験有)	開講 学年	通年 前期 後期	単位数	必修・ 選択等
1 リハビリテーション概論	病院での臨床経験を踏まえ、リハビリテーションに関する基礎的知識を教授する。	福田 倫也	福田 倫也 ※ 堀口 利之 ※ 半田 知也 ※ 東條美奈子 ※ 坂本 美喜 ※ 幅田 智也 ※ 原 由紀 ※ 榎原 七重 ※	1	後期	1 単位	必修
2 チーム医療論(演習含)	病院での臨床経験を踏まえ、実践的なチーム医療の意義や必要性、チーム医療におけるコミュニケーションの重要性や必要性について概説する。	伊藤 智夫	伊藤 智夫 ※ 岩村 正嗣 ※ 宮岡 等 ※ 渡邊 昌彦 ※ 坂東 由紀 ※ 厚田 幸一郎 ※ 有田 悦子 ※ 吉田 一成 ※ 渋谷 明隆 ※ 伊勢田 明子 ※ 齋藤 有紀子 ※ 田ヶ谷 浩邦 ※ 松永 篤彦 ※ 五味 勉 ※ 油谷 和子 ※ 渡邊 達也 ※	1	後期	1 単位	必修
3 視覚機能療法学概論Ⅰ	病院での臨床経験を踏まえ、視覚機能療法の意義及び実際の視能検査・訓練どのように展開されるのかを概説する。	半田 知也	半田 知也 ※ 川守田 拓志 ※ 浅川 賢 ※ 榎原 七重 ※ 藤村 美佐子 ※ 岩田 遥 ※	1	前期	2 単位	必修
4 医療学概論	病院、企業、公的機関等での経験を踏まえ、医療に関連した各種職業分野と社会活動等について講義する。	北里 英郎	檀原 宏文 ※ 黛 まどか ※ 北里 耕亮 ※ 北里 一郎 ※ 森 孝之 ※ 五十嵐 真希 ※ 丸山 弘子 ※ 吉田 一成 ※ 洪 賢秀 ※ 柴 喜崇 ※ 渋谷 明隆 ※ 油谷 和子 ※ 石田 浩之 ※ 田ヶ谷 浩邦 ※ 東條美奈子 ※	1	前期	2 単位	必修
5 眼科英語	病院での臨床経験を踏まえ、眼科英語の意義及び実際の臨床現場での活用(応用)を学ぶ。	神谷 和孝	神谷 和孝 ※ 川守田 拓志 ※ 榎原 七重 ※ 岩田 遥 ※	2	前期	1 単位	必修

実務経験のある教員による授業科目一覧表

〔部門：医療衛生学部 リハビリテーション学科 視覚機能療法学専攻〕

科目名	実務経験の授業への活用方法	科目責任者	科目担当者 (※は実務経験有)	開講 学年	通年 前期 後期	単位数	必修・ 選択等
6 生理学Ⅱ	研究所での研究経験を踏まえ、生理学分野の研究成果が人体の仕組みの解明にどのように貢献しているか概説する。	石橋 仁	石橋 仁 ※ 濱田 幸恵 ※	2	前期	2 単位	必修
7 病理学	研究機関での経験を踏まえ、病理学的基礎知識が臨床的専門分野の礎となることを概説する。	丸山 弘子	丸山 弘子 ※	2	前期	2 単位	必修
8 公衆衛生学	公的機関での短期専門家としてインドネシア共和国に派遣され、衛生における研究や教育の指導に携わった経験を踏まえ、環境問題解決の基本的な考え方や上下水道整備の意義を概説する。	内藤由紀子	内藤由紀子 ※ 伊与 亨 ※ 片桐 裕史	2	後期	2 単位	必修
9 薬理学	研究所での研究経験を踏まえ、薬物の作用機序や薬物の作用点としての生体の構造とその機能を理解する上で、薬理学領域の研究がどのように役立っているか概説する。	小島 史章	小島 史章 ※	2	前期	2 単位	必修
10 臨床医療学Ⅰ	病院での実務経験を踏まえ、臨床医学の各分野について、その分野の専門教員により教授する。	東條美奈子	片桐 真人 ※ 福田 倫也 ※ 堀口 利之 ※ 石川 均 ※ 堀江 良一 ※ 東條美奈子 ※ 横場 正典 ※ THET THET LWIN ※ 隈部 俊宏 ※ 小林 清典 ※ 隈元 雄介 ※ 佐藤 武郎 ※ 釘持 学 ※ 熊澤 憲一 ※ 近藤 関子 ※ 柴山 啓子 ※ 小泉 寛之 ※ 石戸 謙次 ※ 東野 俊洋 ※ 高山 陽子 ※ 佐々木治一郎 ※ 服部 潤 ※ 酒井 健史 ※ 長谷川力也 ※ 土岐 卓也 ※	2	通年	4 単位	必修
11 臨床医療学Ⅲ	病院での実務経験を踏まえ、臨床医学の各分野について、その分野の専門教員により教授する。	東條美奈子	田ヶ谷浩邦 ※ 福田 倫也 ※ 安藝 良一 ※	2	後期	1 単位	必修

実務経験のある教員による授業科目一覧表

〔部門：医療衛生学部 リハビリテーション学科 視覚機能療法学専攻〕

	科目名	実務経験の授業への活用方法	科目責任者	科目担当者 (※は実務経験有)	開講 学年	通年 前期 後期	単位数	必修・ 選択等
12	臨床心理学 I	臨床心理士としての臨床経験を踏まえ、精神障害の特徴およびその支援について概説する。	市倉加奈子	市倉加奈子 ※	2	前期	2 単位	必修
13	発達心理学	臨床心理士としての臨床経験を踏まえ、発達の正常および異常について講義を行う。	市倉加奈子	市倉加奈子 ※	2	前期	2 単位	必修
14	社会系医療学	病院等での経験を踏まえ、社会福祉に関する概要や制度、ソーシャルワークの実際を講義する。	渡邊 誠	柴喜崇 ※ 左右田哲 ※ 中村球恵 ※ 亀澤有子 ※ 中村奈奈 ※ 坪井ゆり ※ 市川賀一 ※ 提中拓 ※	2	前期	1 単位	必修
15	医療統計学	研究所での経験を踏まえ、実際の工場で測定されるデータのばらつき等をどう評価するかを概説する。 病院での臨床経験を踏まえ、医療における統計学の重要性及び実際の統計を使用したデータ処理がどのように展開されるのかを概説する。	稲岡 秀検	稲岡 秀検 ※ 守田 憲崇 ※	2	後期	2 単位	必修
16	社会福祉実習	病院での臨床経験を踏まえ、医療と福祉の関係及び実際の視覚障害者に対する福祉サービスがどのように展開されるのかを解説する。	榑原 七重	榑原 七重 ※	2	前期	1 単位	必修
17	保育	保育・療育の現場での経験、臨床での乳幼児医療での経験を踏まえ、乳幼児の視覚発達と、身体的精神的発達のかかりについて概説する。	榑原 七重	河合 高鋭 ※ 榑原 七重 ※	2	前期	2 単位	必修
18	保育実習	障害や疾患のある子供の指導経験、病院での臨床経験を踏まえ、治療中の児が通う園等の保育士との情報共有等について概説し、視能訓練士を目指す者の実習での取り組みについて解説する。	榑原 七重	河合 高鋭 ※ 榑原 七重 ※	2	通年	2 単位	必修
19	視覚機能療法学概論 II	病院での臨床経験を踏まえ、臨床において視能訓練士が実施する検査・訓練が眼疾患の治療においてどのように展開されるのかを概説する。	榑原 七重	榑原 七重 ※ 石川 均 ※ 半田 知也 ※ 川守田拓志 ※ 浅川 賢 ※	2	前期	2 単位	必修

実務経験のある教員による授業科目一覧表

〔部門：医療衛生学部 リハビリテーション学科 視覚機能療法学専攻〕

科目名	実務経験の授業への活用方法	科目責任者	科目担当者 (※は実務経験有)	開講 学年	通年 前期 後期	単位数	必修・ 選択等
20 視覚機能療法学概論Ⅲ	病院での臨床経験を踏まえ、光学の基礎を学ぶことの意義について解説する。	川守田拓志	川守田拓志 ※	2	後期	2 単位	必修
21 視器解剖・病理学	病院での臨床経験を踏まえ、症例を提示しつつ眼組織から視覚中枢までの形態と機能を指導する。	浅川 賢	浅川 賢 ※	2	前期	2 単位	必修
22 視器解剖・病理学実習	病院での臨床経験を踏まえ、眼科臨床で必要とされる視器の構造や役割、診かたに重点を置いて指導する。	浅川 賢	門谷 裕一 ※ 小畑 秀一 ※ 田口 明子 ※ 林 徹 ※ 木村 武俊 ※ 浅川 賢 ※	2	後期	1 単位	必修
23 視覚臨床生理学	臨床経験を基に、眼の解剖・構造を踏まえ、実際の臨床所見としてどのように検出されるかを概説する。	神谷 和孝	神谷 和孝 ※ 浅川 賢 ※ 岩田 遥 ※ 藤村美佐子 ※	2	後期	2 単位	必修
24 視能矯正学総論実習Ⅰ	臨床経験を踏まえ、実際の臨床検査がどのように実施されるか実習する。	藤村美佐子	藤村美佐子 ※	2	後期	1 単位	必修
25 リハビリテーション医学	病院での臨床経験を踏まえ、各専門職種の視点から、リハビリテーション医学に必要な知識について教授する。	東條美奈子	東條美奈子 ※ 片桐 真人 ※ 堀口 利之 ※ 高平 尚伸 ※ 福田 倫也 ※ 佐野 肇 ※ 半田 知也 ※ 榊原 七重 ※ 中澤 祐則 ※ 頼住 孝二 ※ 宮城 正行 ※	3	前期	2 単位	必修
26 視覚臨床生理学実習	臨床経験を基に、眼の解剖・構造を踏まえ実際の臨床においてどのように検査するかを実習する。	藤村美佐子	藤村美佐子 ※ 半田 知也 ※ 川守田拓志 ※ 浅川 賢 ※ 榊原 七重 ※ 岩田 遥 ※ 干川 里絵 ※	3	後期	1 単位	必修
27 眼科学	病院での臨床経験を踏まえ、眼の解剖・構造と眼科疾患との関連性や治療について概説する。	神谷 和孝	神谷 和孝 ※ 岩田 遥 ※	3	通年	3 単位	必修
28 眼科薬理学	病院での臨床経験を踏まえ、実際のケースを紹介して薬物の適切な使用を指導する。	浅川 賢	石川 均 ※ 浅川 賢 ※	3	前期	1 単位	必修

実務経験のある教員による授業科目一覧表

〔部門：医療衛生学部 リハビリテーション学科 視覚機能療法学専攻〕

科目名	実務経験の授業への活用方法	科目責任者	科目担当者 (※は実務経験有)	開講 学年	通年 前期 後期	単位数	必修・ 選択等
29 眼科臨床機器学	病院での臨床経験を踏まえ、医療機器を扱う際の注意事項やメンテナンスに重点を置いて指導する。	浅川 賢	榑原 七重 ※ 藤村 芙佐子 ※ 永野 幸一 ※ 山口 純 ※ 浅川 賢 ※	3	後期	1 単位	必修
30 神経眼科学	病院での臨床経験を踏まえ、神経や筋、眼球運動異常の診かたを、症例の動画を交えながら指導する。	石川 均	石川 均 ※ 半田 知也 ※ 浅川 賢 ※ 岩田 遥 ※	3	前期	2 単位	必修
31 神経眼科学実習	病院での臨床経験を踏まえ、視覚系や神経系を評価する意義及び実際の検査方法がどのように展開されるのかを指導する。	石川 均	石川 均 ※ 半田 知也 ※ 川守田 拓志 ※ 浅川 賢 ※ 榑原 七重 ※ 藤村 芙佐子 ※ 干川 里絵 ※	3	後期	1 単位	必修
32 生理光学	病院での臨床経験を踏まえ、生理光学の意義及び検査の実際について解説する。	川守田拓志	川守田拓志 ※	3	前期	2 単位	必修
33 生理光学実習	病院での臨床経験を踏まえ、生理光学の意義及び検査の実際について実習および実技試験を行う。	川守田拓志	榑原 七重 ※ 藤村 芙佐子 ※ 浅川 賢 ※ 岩田 遥 ※ 干川 里絵 ※ 永留 幸明 ※ 山崎 健 ※ 川守田拓志 ※	3	前期	1 単位	必修
34 視能訓練学	病院での臨床経験を踏まえ、視覚リハビリテーションの意義及び実際の視能訓練がどのように展開されるのかを説明する。	半田 知也	半田 知也 ※ 三輪 まり枝 ※ 戸塚 悟 ※ 岩田 遥 ※ 伊藤 博隆 ※	3	後期	2 単位	必修
35 視能矯正学総論	病院での臨床経験を踏まえ、大学病院での見学実習を通して、視能矯正の意義及び実際の視能訓練が、どのように展開されるのかを指導する。	石川 均	石川 均 ※ 半田 知也 ※ 榑原 七重 ※ 岩田 遥 ※	3	通年	4 単位	必修
36 視能矯正学総論実習Ⅱ	病院での臨床経験を踏まえ、実際の臨床検査がどのように実施されるか実習および実技試験を行う。	藤村 芙佐子	半田 知也 ※ 川守田 拓志 ※ 浅川 賢 ※ 榑原 七重 ※ 藤村 芙佐子 ※ 岩田 遥 ※ 干川 里絵 ※	3	前期	2 単位	必修

実務経験のある教員による授業科目一覧表

〔部門：医療衛生学部 リハビリテーション学科 視覚機能療法学専攻〕

科目名	実務経験の授業への活用方法	科目責任者	科目担当者 (※は実務経験有)	開講 学年	通年 前期 後期	単位数	必修・ 選択等
37 視能矯正学各論Ⅰ	病院での臨床経験を踏まえ、斜視の検査及び実際の斜視の診断・治療がどのように展開されるのかを説明する。	半田 知也	半田 知也 ※ 石川 均 ※ 榊原 七重 ※	3	前期	2 単位	必修
38 視能矯正学特論実習Ⅰ	眼科診療における視機能検査・訓練の臨床経験を踏まえ、実際の視能検査・訓練がどのように行われるのかを説明する。	半田 知也	半田 知也 ※ 川守田拓志 ※ 榊原 七重 ※ 浅川 賢 ※ 藤村美佐子 ※ 岩田 遥 ※ 干川 里絵 ※	3	後期	1 単位	必修
39 視能矯正学各論Ⅱ	病院での臨床経験を踏まえ、小児の発達や弱視の概念、治療、訓練法について概説する	藤村美佐子	藤村美佐子 ※	4	前期	2 単位	必修
40 視能矯正学特論	視覚に関する専門的知識習得において、病院での臨床経験を踏まえ、眼疾患の検査・診断・治療の実際を関連づけて説明する。	半田 知也	半田 知也 ※ 石川 均 ※ 神谷 和孝 ※ 川守田拓志 ※ 浅川 賢 ※ 榊原 七重 ※ 藤村美佐子 ※ 岩田 遥 ※	4	通年	2 単位	必修
41 視能矯正学特論実習Ⅱ	病院での臨床経験を踏まえ、臨床実習において感じた疑問を解決し、今後視能訓練士として臨床に出るために必要な知識、技術、問題解決の方法について指導する。	榊原 七重	半田 知也 ※ 川守田拓志 ※ 榊原 七重 ※ 浅川 賢 ※ 藤村美佐子 ※ 岩田 遥 ※ 干川 里絵 ※	4	前期	1 単位	必修
42 視覚矯正工学	病院での臨床経験を踏まえ、臨床における視覚障害者支援について、症例紹介を交え講義する。	榊原 七重	川守田拓志 ※ 榊原 七重 ※	4	前期	2 単位	必修
43 臨床実習	病院での臨床経験を踏まえ、実際の病院における実習を通して、卒後、視能訓練士としての業務を理解し、向上心を持って実技を習得するよう指導する。	藤村美佐子	石川 均 ※ 神谷 和孝 ※ 半田 知也 ※ 川守田拓志 ※ 浅川 賢 ※ 榊原 七重 ※ 藤村美佐子 ※ 岩田 遥 ※	4	通年	9 単位	必修

実務経験のある教員による授業科目一覧表

〔部門：医療衛生学部 リハビリテーション学科 視覚機能療法学専攻〕

科目名	実務経験の授業への活用方法	科目責任者	科目担当者 (※は実務経験有)	開講 学年	通年 前期 後期	単位数	必修・ 選択等
44 卒業研究	病院での臨床経験を踏まえ、眼科臨床における懸案事項や話題を提供し、学生自らが研究に取り組むように指導する。	石川 均	石川 均 ※ 半田 知也 ※ 神谷 和孝 ※ 川守田拓志 ※ 浅川 賢 ※ 榎原 七重 ※ 藤村 芙佐子 ※ 岩田 遥 ※ 干川 里絵 ※ 研究委員	4	通年	6 単位	必修
45 分子血栓止血学	病院での臨床経験を踏まえ、先天的、後天的出血性疾患についての臨床的意義について講義し、また実際の血液補充療法や薬物療法がどのように展開されているのかを概説する。	松尾 純孝	松尾 純孝 ※	全	前期	2 単位	自由
46 臨床検査学概論	臨床検査技師・細胞検査士・医師として病院、検査センター、健診センター、研究所、企業での経験を踏まえ、各分野での臨床検査の意義、様々な医療現場において活躍する臨床検査技師の役割及び臨床検査技師・細胞検査士の実際の業務について概説する。	佐藤 隆司	佐藤 隆司 ※ 横場 正典 ※ 西村由香里 ※ 長塩 亮 ※ 太田 悦朗 ※ 中村 正樹 ※ 黒崎 祥史 ※	全	後期	1 単位	自由
47 ボランティア社会学	医療機関での臨床業務や研究所・企業での研究経験を踏まえ、医療知識が災害や国内外のボランティア活動にどのように活かされているかを概説する。	丸山 弘子	丸山 弘子 ※ 菅野 信弘 ※ 上澤 悦子 ※ 長沢 光章 ※ 谷ヶ城良太 ※ 正木 朋也 ※ 河村 晃依 ※ 江川 美奈 ※ 佐藤 春彦 ※ 柴 喜崇 ※ 渡邊 裕之 ※ 大室 和也 ※ 医療衛生学部QQクラブ	全	後期	2 単位	自由
48 神経・生理心理学	研究所、臨床（医師）での実務経験を踏まえ、神経活動、神経伝達、神経系構造と役割について解説する。	田ヶ谷浩邦	田ヶ谷浩邦 ※	全	後期	2 単位	自由
49 社会・集団・家族心理学	臨床心理士としての臨床経験を踏まえ、社会・集団における対人・自己認知や家族機能の正常および病的なメカニズムを概説する。	市倉加奈子	市倉加奈子 ※	全	前期	2 単位	自由

実務経験のある教員による授業科目一覧表

〔部門：医療衛生学部 リハビリテーション学科 視覚機能療法学専攻〕

科目名	実務経験の授業への活用方法	科目責任者	科目担当者 (※は実務経験有)	開講 学年	通年 前期 後期	単位数	必修・ 選択等
50 感情・人格心理学	臨床心理士としての臨床経験を踏まえ、感情・人格の正常および病的なメカニズムを概説する。	深瀬 裕子	深瀬 裕子 ※	全	後期	2 単位	自由
51 医療に利用される最新科学	病院での臨床経験を踏まえ、医学における研究トピックス及び最近の動向を概説する。	原 秀剛	原 秀剛 ※	全	後期	1 単位	自由
52 生体信号計測概論	企業での機器開発経験を踏まえ、生体信号計測機器の利用と開発に必要な基礎知識について概説する。	小菅 智裕	小菅 智裕 ※	全	前期	1 単位	自由
合計						102 単位	